

豊後大野市朝地町綿田地区の地割れ微地形調査について

平成29年5月20日に豊後大野市朝地町綿田地区で住民の通報により見つかった地割れは、25日現在も亀裂規模が拡大（運動速度の増大）し、その崩落の危険は予断を許さない状況である。これらの現象は、すべり面における地塊のせん断応力のつり合い条件によって発生し、誘因となる地下水変動や素因となる地質・地形特性が主な原因と考えられる。今後、亀裂を伴う崩壊の運動が活発になると滑落を生じ、それにより移動地塊が流動化し、地すべりが発生する。今後、十分な警戒が必要である。

発生後、亀裂の運動速度が加速しており、滑落の危険度が増したとして災害対策基本法にもとづき市は現地を警戒区域に指定した。現地では速やかな調査が行われ、専門家チーム（土木研究所）より「地中でゆっくりとした地すべりが起きている」（2017.5.25大分合同新聞）と見解が示された。大分大学においても地元大学として地学・減災をテーマとする研究者より、様々な視点から総合的な支援対策について議論する必要も重要である。

崩落の危険度が増す一方、警戒区域の設定により現地踏査の実施が難しくなり、今後の応急対策および計画のための現地調査に支障をきたす可能性がある。そこで本調査では、警戒区域外からUAVを活用した写真測量を実施し、図1と図2に示す撮影計画のもとに写真データから三次元微地形データを作成する。作成された三次元データは災害対策の基礎資料として利用し、関係する研究者および自治体関係者での共有を図ることを目的とする。

実施日:平成29年5月28日(日)10:00～

場 所:発災現場警戒区域外(後藤啓文様邸敷地内:綿田384番地TEL0974-72-0314)許可済み

内 容:現地視察とUAVを用いた地形測量と地形判読

現地調査メンバー(大分大学)

理工学部創生工学科・建築学コース 准教授 小林 祐司(防災教育)

教育学部地理学教室 准教授 小山 拓志(自然地理学)

産学官連携推進機構 准教授 鶴成 悦久(空間情報工学)

<お問い合わせ先>

連絡先:097-554-8528

携 帯:090-4474-1613

y-tsurunari@oita-u.ac.jp

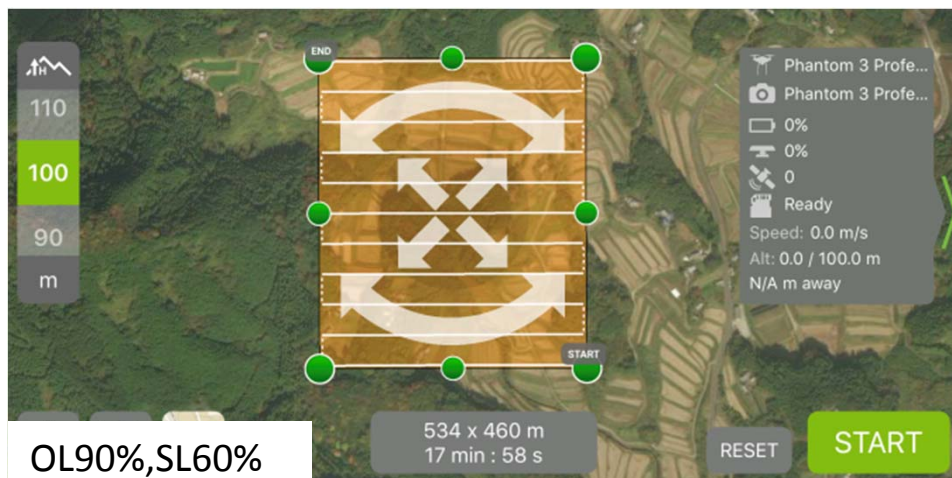


図1.地表面撮影計画



図2.警戒区域撮影計画